

回富山県歯科衛生士研修会講演, 1985, 11, 富山.

10) Iwai M., Kohama G.: Clinical significance of nuclear DNA content of oral carcinoma. Eighth international congress of oral surgery, 55-61, 1985.

和 漢 診 療 部

助 教 授 寺 澤 捷 年
助 手 土 佐 寛 順
助 手 檜 山 幸 孝

◆ 著 書

1) 寺澤捷年:循環器疾患の漢方治療。「循環器内科治療ハンドブック」稲垣義明他編, 169-176, 南山堂, 1985.

2) 寺澤捷年:神経系。「臨床医の漢方治療指針」長谷川弥人他編, 319-356, メジカルビュー社, 1985.

3) Kumagai A., Terasawa K.: The Scientific Identification of Kampho 'SHO', In HERBAL MEDICINE: KAMPŌ, Past and Present, by Taro Takemi, etc. (Ed.), 66-67 TSUMURA JUNTENDO, INC, 1985.

4) 寺澤捷年:日本の現代医療における中国伝統医学の役割。「今日のアジア伝統医学」織田敏次他編, 32-38, Excerpta Medica, 1985.

5) 寺澤捷年:「現代の漢方治療」大塚恭男, 鍋谷欣市, 有地 滋, 寺澤捷年編, 288-315, 東洋学術出版社, 1985.

6) 寺澤捷年訳:「神経内科治療マニュアル」Martin A. Samuels 編, 17-34 327-384, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1985.

◆ 原 著

1) Tokunaga A. Sugita S., Otani K., Terasawa K.: Quantitative Morphological Changes in the Superior Colliculus and the Parabrachial Nucleus in the Bilaterally Microphthalmic Rat, Developmental Brain Research 23: 131-140, 1985.

2) Sugita S., Tokunaga A., Otani K., Terasawa K.: Ascending Projections to the Lateral Thalamic Nuclei from the Substantia Grisea Centralis in the Rat: a Retrograde WGA-HRP Study, Neuroscience Research 2: 186-199, 1985.

3) 鳥居塚和生, 寺澤捷年, 本間精一, 足立伊左雄, 中川輝昭, 堀越 勇: 桂枝茯苓丸の製剤学的検

討一煎剤および丸剤の成分比較一. 日本東洋医学雑誌 35: 185-189, 1985.

4) 土佐寛順, 寺澤捷年, 今田屋章: 心下痞鞭とその関連症状に関する研究. 日本東洋医学雑誌 36: 159-164, 1985.

5) Terasawa K., Torizuka K., Bandow M., Imadaya A., Tosa H.: Effects of medicinal plants on the metabolism of platelet arachidonic acid, 和漢医薬学会誌 2: 310-316, 1985.

6) Terasawa K., Tosa H.: A Case of Chronic Hepatitis with Development of Carcinoma of Gall Bladder Observed During Treatment with Traditional Chinese Medicine. 日本東洋医学雑誌 36: 101-106, 1985.

7) 今田屋章, 寺澤捷年: 白通湯が奏効した水瀉性下痢の一例. 日本東洋医学雑誌 35: 273-278, 1985.

8) 寺澤捷年, 土佐寛順, 坂東みゆ紀, 今田屋章, 檜山幸孝: 胃内停水の研究(第2報). 日本東洋医学雑誌 36: 1-6, 1985.

9) Terasawa K., Imadaya A.: Therapeutic Effect of Sino-Japanese (Kampoh) Medicine on Rheumatoid Arthritis. J. 3 Med. Pharm. WAKAN-YAKU 2: 438-444, 1985.

◆ 総 説

1) 寺澤捷年: 関節痛. 内科 56: 893-895, 1985.

2) 寺澤捷年, 熊谷 朗: 喘息治療と和漢方剤, Pharma Medica 3, 67-72, 1985.

3) 寺澤捷年: 喘息の治療一漢方薬による治療一. 現代医療 17: 2226-2231, 1985.

4) 寺澤捷年: 血小板アラキドン酸代謝に及ぼす和漢薬の効果一血小板凝集能MDA値の変動一. Therapeutic Research 2: 1055-1061, 1985.

5) 寺澤捷年: 慢性関節リウマチの和漢薬による治療. Therapeutic Research 3: 552-554, 1985.

6) 寺澤捷年: めまい・平衡障害と和漢薬治療. Equilibrium Res 44: 14-22, 1985.

7) Terasawa K.: The role of traditional Chinese medicine in contemporary health care in Japan. Proceedings of Symposium 9 and Stellite Symposium 8 of the 17th International Congress of Internal Medicine: 46-54, 1985.

◆ 学会報告

1) 寺澤捷年: 不定愁訴症候群の臨床比較試験に関する研究。「証, 経穴の科学的実証及び生薬資源の確保に関する研究」シンポジウム: 科学技術庁,

1985, 10, 東京.

2) 横澤隆子, 鈴木奈緒美, 鄭 平東, 奥田伊津子, 大浦彦吉, 三瀨忠道, 寺澤捷年: 大黃並びに大黃含有漢方剤による慢性腎不全の改善作用. 第22回日本臨床代謝学会総会, 1985, 2, 東京.

3) 檜山幸孝, 寺澤捷年, 土佐寛順, 布施信三, 城石平一: 足趾潰瘍をみたアルコール性多発性神経炎の1症例. 日本内科学会第137回東海第129回北陸合同地方会, 1985, 11, 名古屋.

4) 城石平一, 寺澤捷年, 三瀨忠道, 檜山幸孝, 三輪淳夫: RAに続発したアミロイドーシスの2症例. 日本内科学会第137回東海第129回北陸合同地方会, 1985, 11, 名古屋.

5) 島田多佳志, 三瀨忠道, 平林多津司, 高橋宏三, 檜山幸孝, 土佐寛順, 寺澤捷年, 今田屋章: 視神経炎を伴ったシェーグレン症候群の3例. 第126回日本内科学会北陸地方会, 1985, 3, 金沢.

6) 城石平一, 霜田ふゆみ, 檜山幸孝, 土佐寛順, 寺澤捷年: 低Mg血症による低Ca血症性テタニーを呈した続発性アミロイドーシスの1例. 第7回北陸骨Ca代謝談話会, 1985, 11, 金沢.

7) 今田屋章, 黒田 惇, 金木美智子, 寺澤捷年, 土佐寛順, 三瀨忠道: 膠原病に対する和漢薬治療の意義. 第36回日本東洋医学会学術総会, 1985, 5, 東京.

8) 三瀨忠道, 土佐寛順, 伊藤 隆, 寺澤捷年, 今田屋章: 湯液における証と「電気温鍼」について. 第36回日本東洋医学会学術総会, 1985, 5, 東京.

9) 伊藤 隆, 三瀨忠道, 土佐寛順, 寺澤捷年: 気管支喘息に対する木防己湯の応用. 第36回日本東洋医学会学術総会, 1985, 5, 東京.

10) 鄭 平東, 横澤隆子, 大浦彦吉, 寺澤捷年, 三瀨忠道: 慢性腎不全に対する漢方方剤温脾湯の改善作用. 第2回和漢医薬学会, 1985, 9, 京都.

11) 今田屋章, 寺澤捷年, 伊藤 隆: 伝統的和漢薬(漢方)治療による気管支喘息の治療. 第4回国際東洋医学会, 1985, 10, 京都.

12) Terasawa K., Mitsuma T., Tosa H., Oura H., Yokozawa T.: Rhubarb Therapy in Patients with Chronic Renal Failure. The 4th International Congress of Oriental Medicine, 1985, 10, 京都.

13) 金岡又雄, 矢野三郎, 加藤弘己, 中田貴子, 川村和弘, 寺澤捷年, 坂東みゆ紀: 和漢薬の生理活性成分の酵素免疫測定法の研究グリチルレチン酸の酵素免疫測定法について(2). 日本薬学会第105年会, 1985, 4, 金沢.

14) 寺澤捷年: 瘀血証の現代科学的研究. 和漢薬

(中薬)の医学薬学的研究に関する日中シンポジウム, 1985, 9, 富山.

15) 今田屋章, 黒田 惇, 鈴木美智子, 寺澤捷年, 土佐寛順: 「富山県立中央病院和漢診療科を開設して」—1年間の記録—. 昭和60年度日本東洋医学会北陸支部学術総会, 1985, 11, 金沢.

16) 檜垣修一, 小西可南, 諸橋正昭, 寺澤捷年: 当科における和漢外来の現況: 第5報一皮膚疾患と証との検討—. 第2回和漢医薬学会, 1985, 9, 京都.

17) 土佐寛順, 寺澤捷年, 檜山幸孝: 漢方的腹候“心下痞鞭”と血中カテコールアミンとの関連について. 第2回和漢医薬学会, 1985, 9, 京都.

18) 鄭 平東, 横澤隆子, 大浦彦吉, 寺澤捷年, 三瀨忠道: 慢性腎不全に対する漢方方剤温脾湯の改善作用. 第2回和漢医薬学会, 1985, 9, 京都.

19) 坂東みゆ紀, 寺澤捷年, 土佐寛順, 金岡又雄, 平手純司: グリチルレチン酸の体内動態に関する研究IIラットにおける体内動態. 第2回和漢医薬学会, 1985, 9, 京都.

◆ その他

1) 寺澤捷年, 檜山幸孝, 土佐寛順, 渡辺祐司: 自律神経発作「奔豚気病」の病態解析. 和漢医薬学会誌 2: 224—225, 1985.

2) 鳥居塚和生, 寺澤捷年, 川尻ゆかり, 今田屋章, 三瀨忠道: 血小板アラキドン酸代謝におよぼす和漢薬の効果—血小板凝集能とMDA値の変動—. 和漢医薬学会誌 2: 236—237, 1985.

3) 東田道久, 渡辺裕司, 萩原昌樹, 檜山幸孝, 寺澤捷年, 渡辺和夫: 桂アルデヒドの中樞作用(第3報)レセルピン処置マウスにおける作用. 和漢医薬学会誌 2: 244—245, 1985.

4) 坂東みゆ紀, 寺澤捷年, 金岡又雄, 矢野三郎, 加藤弘己, 平手純司, 堀越 勇: グリチルレチン酸の体内動態に関する研究. 和漢医薬学会誌 2: 264—265, 1985.

5) 鄭 平東, 鄭 海泳, 鈴木奈緒美, 横澤隆子, 大浦彦吉, 三瀨忠道: アデニン誘発慢性腎不全ラットに対する漢方方剤温脾湯の効果について. 和漢医薬学会誌 2: 276—277.

6) 池田和夫, 老田智江, 檜垣修一, 小西可南, 高橋省三, 諸橋正昭, 寺澤捷年: 当科における和漢外来の現況—皮膚疾患と証との検討—. 和漢医薬学会誌 2: 284—285, 1985.

7) 檜山幸孝, 寺澤捷年, 今田屋章, 土佐寛順, 三瀨忠道: 難治性神経性疼痛に対する和漢薬治療の試み. 和漢医薬学会誌 1: 56—57, 1985.

8) 城石平一, 霜田ふゆみ, 檜山幸孝, 土佐寛順, 寺澤捷年: 低 Mg 血症による低 Ca 血症タナーを呈した続発性アミロイドーシスの1例, 第7回北陸骨Ca代謝談話会, 1985, 11, 金沢.

9) 熊谷 朗, 大塚恭男, 寺澤捷年: 漢方の臨床・教育・研究—21世紀への医学と医療—, 治療学 15: 766—776, 1985.

10) 熊谷 朗, 藤村 一, 矢野三郎, 寺澤捷年: 座談会: 和漢薬研究をめぐる諸問題—第1回和漢医薬学会を終えて—, Pharma Medica. 2—10, 1985.

11) 寺澤捷年: 世界に根づく東洋医学, 第4回国際東洋医学会印象記, 1985, 12, 医学界新聞.

12) 寺澤捷年, 川筋健次, 成川一郎, 平井俊樹: 座談会: かぜと漢方薬, 1985, 2, 薬日新聞社.

検 査 部

教 授 桜 川 信 男
助 教 授 高 橋 薫 二
助 手 佐 藤 伸 二

◆ 著 書

1) 桜川信男: 止血機能障害, 「脳神経外科—術前・術中・術後管理」佐野圭司編, 273—290, へるす出版, 1985.

2) 桜川信男: 先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症および異常症, 「血液疾患—症例・解説・検査—」血液凝固編, 藤巻道夫, 新谷和夫編, 213—243, 医学書院, 1985.

3) 桜川信男: 血管内凝固症候群, 「Today's Diagnosis 今日の診断指針」亀山正邦他編, 883—886, 医学書院, 1985.

4) 桜川信男, 新井弘之: 凝固線溶系よりみたアスピリン抗血小板療法への提言, 「第3回新潟シンポジウム—血小板放出反応をめぐる—」柴田 昭, 山中 學編, 186—190, 医歯薬出版株式会社, 1985.

5) 桜川信男: 血栓症の診断と治療—内科, 「血液学」安部 英他編, 1676—1683, 丸善株式会社, 1985.

6) 桜川信男: 血管内凝固症候群の診断, 「DICの診断と治療—浜松DICシンポジウム」阪口周吉他編, 45—54, メディカルリサーチセンター, 1985.

◆ 原 著

1) 桜川信男, 近藤信一, 新井弘之, 関根 等: Latex-PIVKA-II測定法(TZR-110法)の検討, 臨床検査機器・試薬 8: 81—87, 1985.

2) 桜川信男, 新井弘之, 宮川照夫, 関根 等:

ユーグロブリン溶解時間におよぼす要因の検討, 臨床検査機器・試薬 8: 93—96, 1985.

3) Kondo S., Niwa M. and Sakuragawa N.: Proceedings of the society of blood coagulations, 1983 subjects related to contact phase. Acta Haematologica Japonica 48: 223—228, 1985.

4) 丹羽知登世, 丹羽正弘, 桜川信男他: 新しい合成基質を用いたアンチトロンビンⅢ, α_2 プラスミン・インヒビターおよびプラスミノーゲン測定用キットの検討, 最新医学 40: 376—382, 1985.

5) Niwa M., Yamagishi R. and Sakuragawa N. et al: Histidine-rich glycoprotein inhibits the antithrombin activity of heparin cofactor II in the presence of heparin or dermatan sulfate. Thromb. Res. 37: 237—240, 1985.

6) 近藤信一, 丹羽正弘: アンチトロンビンⅢとヘパリンコファクターⅡ, 臨床病理特集 61: 106—113, 1985.

7) 桜川信男, 高橋 薫, 貝沼知男: 重症出血をみとめた特発性ビタミンK1欠乏症の1例, 新潟医学会雑誌 99: 40—43, 1985.

8) 近藤信一, 桜川信男: 食道静脈瘤塞栓術施行時にみられたトロンビン・ショックの一例, 最新医学 40: 608—611, 1985.

9) 桜川信男, 金堂 要他: 血友病治療薬の経口化に関する研究, 最新医学 40: 844—848, 1985.

10) 丹羽正弘, 丹羽知登世, 桜川信男他: 新しい合成基質を用いたアンチトロンビンⅢ測定法の検討, 最新医学 40: 582—585, 1985.

11) Kondo S. and Sakuragawa N. et al: The remarkable effect of activated prothrombin-complex concentrates for stoppage of bleeding in cases of severe hemophilia A with an inhibitor. Acta Medica et Biologica 32: 123—128, 1985.

12) Takahashi K., Kondo S. and Sakuragawa N. et al: Changes of the platelet shapes in the blood of patients with cerebrovascular disorders. Acta Medica et Biologica 32: 151—155, 1985.

13) Arai H., Sekine H., Miyakawa T. and Sakuragawa N.: Studies on the assay method for blood prekallikrein, and changes in prekallikrein levels in cerebrovascular disorder cases. Acta Medica et Biologica 32: 157—163, 1985.

14) 桜川信男, 新谷憲治, 近藤信一: 経口投与方法による von Willebrand 病の治療の試み, 日本血液学会雑誌 48: 145—148, 1985.